

平成 30 年 1 月 30 日

総 務 大 臣 殿

三重県鈴鹿市住吉町 8947  
株式会社 鈴鹿メディアパーク  
代表取締役社長 加藤 正彦

番組審議機関関連について（報告）

下記の○印の事項について、放送法施行令第 8 条第 3 号イの規定により、別紙の書類を添えて提出します。

記

- 1 番組審議機関の名称変更  
・変更内容の新旧対比表
- 2 審議機関の組織及び運営に関する規程の変更  
・変更内容の新旧対比表  
・変更後の現状
- 3 審議機関の委員の変更  
様式 6-1 のとおり。
- ④ 審議機関の会議の議事録  
様式 6-2 のとおり。

第 48 回 Suzuka Voice FM 番組審議会 議事録

審議会開催日時 平成 30 年 1 月 19 日 (金) 16 時 00 分～17 時 00 分

開催場所 Suzuka Voice FM 会議室

事務局：瓦谷理 (Suzuka Voice FM)

出席者：(敬称略) 山崎昭 長橋祐子 西山哲也 服部高明 市野聖治 中道公子

欠席者：(敬称略) 亀井秀樹

放送事業者側出席者：瓦谷理

委員長：山崎昭

委員総数 7 名

出席委員数：6 名

■番組内コーナー「防災防犯まめ辞典」について審議いただきました。

毎週防災と防犯に関する「まめ知識」を習得するコーナー番組です。

リスナーの皆さんと一緒に防災・防犯に関する知識を身につけていきます。

昨年 7 月からは、防災士監修で以前より専門的な知識を交えつつわかりやすく放送しています。

～番組内容を音源で検聴～

委員長： それでは、ご意見を伺います。

委員： 原稿は社内で制作しているのですか。

事務局： 以前から似たような内容の番組を放送していましたが、内容が薄かったこともあり局員が防災士の資格を取得し、その監修ということで防災士の協会からの情報なども活用しつつより生活に密着した内容に強化しています。

委員： 内容に問題はないが、「阪神大震災のときに鈴鹿市民はどう行動していたか」などインパクトのあるネタも取り上げていくと良いのではないかと？日常生活の中で忘れやすい内容を取り扱っているのが今よりも回数を増やして繰り返し放送していくべきだと思います。

委員： 普遍的な防災の知識だけでなく、年間を通して過去の大規模災害発生の時期に合わせた内容や地域の環境・情勢に合わせた内容を放送するとより印象に残るのではないのでしょうか。

委員： 知識として新しい発見はあったが、面白さや内容・表現の形式の発展性はもっと考えたほうが良いのでは？例えば情報を発信するだけでなくリスナーとの対話形式という方法もあると思います。

委員： パーソナリティの方の話が分かりやすく、明るい声で好感が持てました。

まめ“辞典”というコーナー名から一方的な情報提供かと思っていましたが、クイズ形式もあるなど工夫が見られました。

事務局： 当局の設立目的の大きな柱の一つは防災や、実際に災害が発生した際に鈴鹿市からの情報などを唯一の情報手段として提供することです。  
本日の意見を参考にさせていただき、より分かりやすく、印象に残るような番組にしていきたいと思えます。ありがとうございました。

#### ■事務局より

今回の審議機関のご意見を受けて、担当パーソナリティとの意見交換や取り上げる内容の見直しをおこない、より良い番組になるように努めます。

回数を増やすべきという指摘に関してはこのコーナーだけではなく防災情報の提供機会を増やすことを検討します。

#### 答申内容

- ・日常生活の中で忘れてしまいやすい内容を扱っており、回数を増やしてくり返し伝えていくべき。
- ・その時期に発生した大災害の事例を交えるなどインパクトのある構成も必要ではないか。
- ・地域の自然・社会環境に合わせた内容も取り上げてほしい。
- ・情報の一方的な提供だけでない表現方法も考えるべき
- ・パーソナリティに好感が持てた。
- ・クイズ形式もあるなど、構成に工夫が見られた。

以上